

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	オーエンス泉岳自然ふれあい館
2	指定管理者	株式会社オーエンス
3	指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数（延べ）》95,043人（前年度比115%） (30年度) 本館：42,579人 市民キャンプ場：10,645人 休憩コーナー：37,501人 古民家：4,318人 (29年度) 本館：41,715人 市民キャンプ場：9,185人 休憩コーナー：31,819人 (28年度) 本館：39,218人 市民キャンプ場：7,636人 休憩コーナー：33,372人
		《事業》 ○受入れ事業 本館：366組 延べ37,797人 (小学校、中学校、子ども会、家族、幼稚園、保育園、他) ○主催事業 58事業：延べ2,533人 ※ボランティア事業含む ○野外活動ボランティア事業 養成講座修了者：3名 登録者：89名 ボランティア支援：86回 延べ278名 ※上記の事業の他に、泉ヶ岳の情報の収集と利用者への提供、軽食堂及び売店の運営、下見対応等を行っている。
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 126,326千円 (114,910千円) ・ その他市が負担した費用 4,067千円 (3,949千円) ()は前年度決算額
		《収入》 ・ 使用料収入 8,588千円 (13,892千円) ・ その他収入 36,224千円 (31,604千円)
6	利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート (H30.4～H31.3に実施) ・ 事業参加者アンケート (H30.4～H31.3に実施)

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	教育委員会が定める運営の基本方針に加え、指定管理者独自の基本方針が策定されており、その周知も行われている。また、集団宿泊活動や自然体験活動等の支援が適切に行われており、施設の設置目的が達成されている。	30/30
II	施設の運営管理体制	開館時間、職員体制、指定管理料の執行状況は仕様書のとおり適正である。個人情報保護及び情報セキュリティ対策については、必要な対策が講じられている。また、事故防止及び災害発生時の対応状況については、マニュアル等が整備されており、定期的に訓練を実施するなど職員への周知も行われていることが確認できた。	29/29
III	施設・設備の維持管理	建物・設備に目立った損傷等は見られず、発見された不具合についても適正な対応が図られており、利用者が安全に利用できる状態が保たれている。また、環境負荷軽減については、仕様書に基づき取組みが行われていた。	24/24
IV	サービスの質の向上	職員のマナーについては、マニュアルの整備、研修の実施等により適正である。特に研修については、ホテルの方を講師に招きより質の高い応対・接遇の研修も行っている。施設の利用情報の提供については、ホームページやフェイスブック、リーフレット等により周知が図られている。また、利用者アンケートを実施し利用者の意見を取り入れた改善を検討するなど、サービス向上の取組みも行われている。	28/28
V	施設固有の基準	売店や軽食堂の運営について、地元産品を積極的に取り入れ、泉ヶ岳周辺地域の振興に資する取組みがなされている。野外活動支援については、仕様書のとおり適正に行われており、怪我や急病にも適切な対応が図られている。運営上求められる保険加入については、仕様書のとおり適正である。	22/22

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（株式会社オーエンス）による自己評価》
<p>平成30年度は第2期指定管理期間のスタートの年として、第1期に培ったノウハウをもとに事業や職員研修の充実を図り、市民に親しまれる施設運営に取り組んだ。利用者数は過去最多の95,043人で、年間目標であった83,000人を大きく上回った。市民キャンプ場と休憩コーナーはともに前年度に比べ10%以上の利用者数増となり、市民が気軽に訪れ、利用することが出来る施設としてふれあい館が定着していることが実感できた。新たに管理を開始した古民家「旧熊谷家住宅」では4月～11月に一般開放を行い、期間中の古民家入館者は4,318人と、市民の関心の高さが伺えた。このことから、古民家を主催事業「泉ヶ岳を写そう」の講評の会場としたり、「オープンデー」で茶席を設けたりするなど、林に囲まれた立地や建物の雰囲気を生かした事業を開催した。主催事業では、前年度試行した「幼児デイキャンプ」の好評を受け、幼児と家族向けの宿泊事業「幼児キャンプ」を開催した。また、「泉岳学寮」ではこれまで1校だった参加対象を近隣小学校3校に増やし、異なる学校の子も同士が交流を持つきっかけとするなど、昨年度までの事業を発展させた事業展開に取り組んだ。ボランティア事業では「ボランティア養成講座（全5回）」や「ボランティアスキルアップ講座（全12回）」を開催した。30年度は延べ78回221名のご支援をいただき、学校利用時の登山やスキーへの帯同は先生方からも喜ばれた。ボランティアの皆さんはふれあい館にとって心強い存在であり、今後もボランティア活動の目的とふれあい館の事業がマッチした場面で協力関係を築いていきたい。維持管理面では、計画的な設備保守点検の実施とともに、職員による修繕や植栽管理で施設の安全性や美観の維持に努めた。</p> <p>今後も青少年の健全育成と市民の生涯学習振興に尽力し、柔軟な事業展開で市民に喜ばれるサービスの提供に取り組んでいく。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>当施設の運営について、指定管理者は協定書及び仕様書に基づき適正に執行している。</p> <p>施設利用者数については、平成30年度の総利用者は95,043人であり、前年度比115%で約12,324人の利用者増となっている。市民キャンプ場及び休憩コーナーは前年度に比べ10%以上の利用増になっている。天候等に恵まれたことに加え、指定管理者の施設運営と積極的な広報の成果と評価できる。</p> <p>また、平成30年度より管理することになった古民家についても適切に維持管理を実施しているだけでなく、一般開放や古民家を利用した主催事業を展開するなど、積極的に古民家の利活用に努めている。</p> <p>主催事業及び独自事業では、例年休日に行っていた事業を試験的に平日に行う等、より多くの利用者に自然体験活動の機会を提供できるよう試行錯誤しながら実施している。また、野外活動ボランティアについては、スキルアップ講座の開催に加え学校利用や主催事業の活動支援等、学んだ成果を活用できる機会を年間を通じて提供しており、生涯学習施設としても十分な機能を果たしていると評価できる。</p> <p>利用者アンケートでは、いずれの項目においても良好な回答が得られており、利用者満足度は高い水準を保っている。</p> <p>平成30年度より第2期の指定管理期間が始まったが、第1期に引き続き安定した施設運営ができています。今後は、指定管理者としてこれまでに蓄えたノウハウを活かしたより効率的な施設運営や効果的な広報、魅力的な事業の企画等が期待される。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部生涯学習課